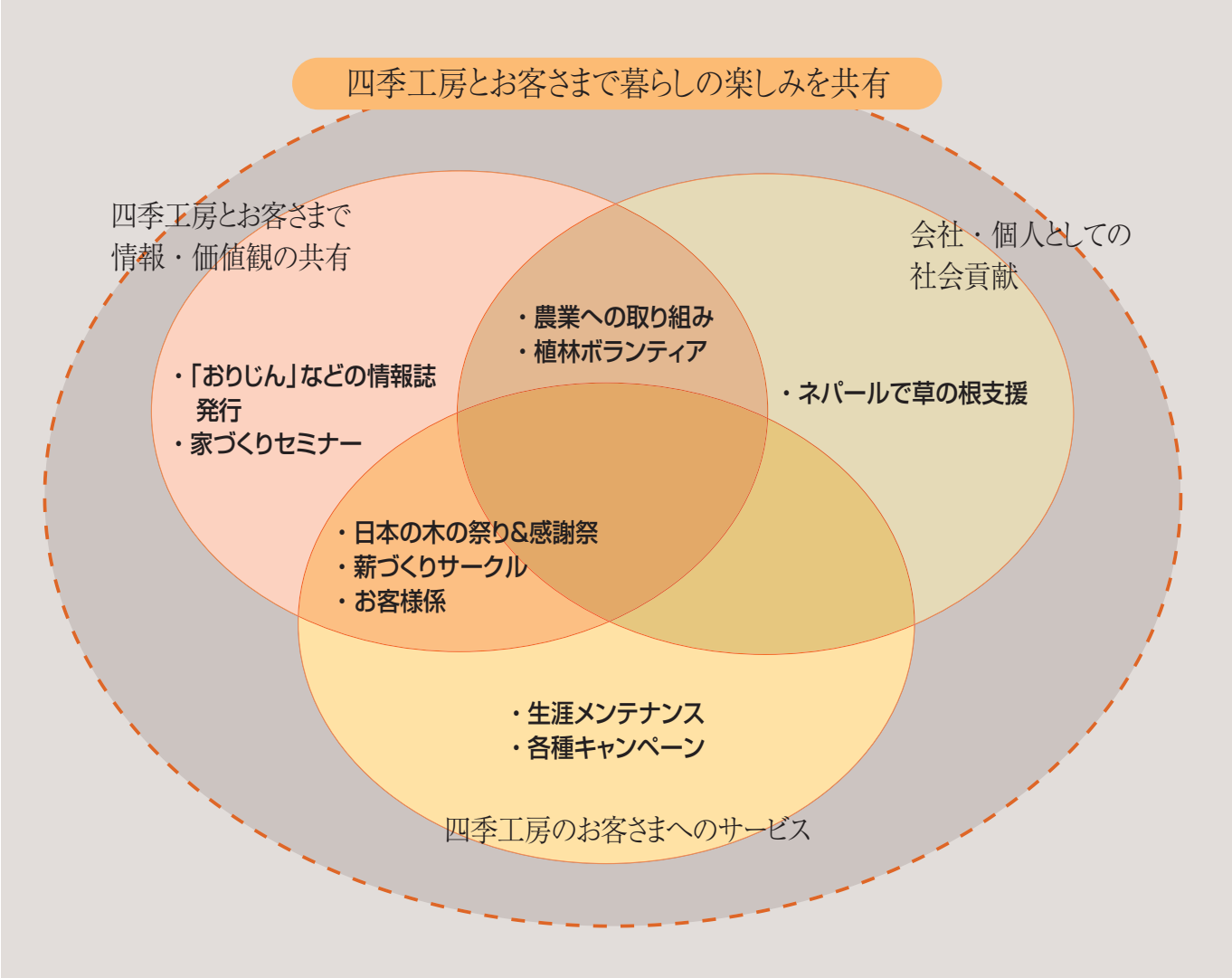
社会への取り組み

四季工房では、本業における環境取り組みのほかに、社会に向けたさまざまな取り組みを行っています。



援農、野菜づくりの開始

「自分たちの食料は自分たちでつくるという機運を高めよう」と、社員も汗を流しています。

ゆいの郷で野菜づくり

自社の木材加工場のある福島県平田村で2000年に体感宿泊棟を建てたとき、このあたり一帯を「ゆいの郷」と名付け、四季工房の家づくりや住まい方、ライフスタイルを発信する複合施設として展開していくことを決めました。今、ゆいの郷には木材加工場と体験宿泊棟のほか、民家を再生したセンターハウスや登り窯、作家のアトリエ、作品展示室などもでき、まさに「家づくりのテーマパーク」となっています。

このゆいの郷内で空いている土地を利用して、2008年から野菜づくりを始めました。食料自給率の向上と、安心安全な食物の提供への貢献をめざすものです。

無農薬有機栽培を実践するため、農業推進グループ「イマジンファクトリー」の指導を受けながら、光合成細菌を使って堆肥をつくり、生きた土づくりに取り組んでいます。

光合成細菌は土中や水中にいる

平田村の農家でアスパラガスの
収穫を手伝う社員

社員の援農活動

好気性細菌で、四季工房が使っているのは「にっぽん菌太郎」。日本各地で収集した天然微生物を培養し、米ヌカで発酵させたものを土壌と使用目的に合わせて調合して使います。2008年は植え付けた白菜とキャベツの７割が虫に食われずに収穫できたので、光合成細菌は虫に強いと実感しました。

2009年春には1.3ha（町歩）の畑に、前年につくった堆肥とにっぽん菌太郎、豚糞を鋤き込み、ジャガイモ、トウモロコシ、ソバなど10種類余を作付けしました。ジャガイモは2,760kg、インゲン14kg、キュウリ1,580本、ナス2,080本、枝豆12,500g、トウモロコシ2,690本の収量があり、社員家族やパートの方、お世話になっている方々にお裾分けもできました。

農作業はふだんは四季工房の社員とシルバー人材センターの方でまかない、農繁期には社員に応援を頼んだり、お客さまから希望者を募るなどして人手を確保しています。

取れた作物は現在、ゆいの郷でお出ししている料理に使用しています。この畑はお客さまに農業体験や味わい体験をしていただく場としても活用していきます。

援農を通じて地域農業を支援

四季工房は農繁期に社員を農家に派遣して援農を行う活動をしています。2009年は平田村の農家で６名の社員がアスパラガスの収穫、ジャガイモの収穫、ニンジン・自然薯の草むしり、出荷作業などを手伝いました。また、別の６名はバラの剪定と藁立てを手伝っています。農業経験のない若い社員が主に参加し、さまざまな学びを得ています。高齢化の進む農家に、わずかでも助力ができればと願うとともに、四季工房の社員たちがこの活動を通じて何かを感じ、本業である家づくりに生かしていければと考えています。

収穫祭をお客さまとともに楽しむ

2009年春にゆいの郷で植え付けたジャガイモとトウモロコシは順調に育ち、たくさんの実をつけました。そこで、８月２日に第１回収穫祭を催し、お客さま23組75名（うち子ども26名）に参加していただいて芋掘りとトウモロコシもぎを楽しみました。参加者は土と触れ合い、平田村の自然を満喫し、充実した１日を過ごされた様子でした。今後も皆さまに楽しみながら農に親しんでいただく収穫祭を続けていきます。

お客さまに援農体験付き宿泊を

2009年から四季工房で家を建てたお客さま向けに、ゆいの郷に宿泊して農作業を体験する「援農体験付き宿泊」を始めました。四季工房では新築のお客さまに家庭菜園の設置をおすすめしていますが、当社のお客さまには農や食への関心の高い方、環境意識の高い方が多いと感じています。体験宿泊されたお客さまからは「家を建てるだけでなく、暮らしの楽しみまで共有してもらえるのがうれしい」との声をいただいています。

お客さまとともに楽しんだ収穫祭

コミュニケーション活動

四季工房では、お客さまとのコミュニケーションを深めることを大切に考え、多彩な活動を展開しています。

日本の木の祭り&感謝祭

2002年から始まった「日本の木の祭り＆感謝祭」は、四季工房のお客さま、一般の訪問客、取引業者や職人さんたちが一堂に会する、年に一度の四季工房最大のお祭りです。2009年は10月31日と11月１日の２日間、ゆいの郷と木ごころ郡山、WSSAにて開催、延べ1,600人の来場者がありました（仙台会場は11月８日に開催し、650人の来場者を迎えています）。

毎年恒例の木工バザール、木工家具制作、丸太椅子販売コーナーは、腕っこきの大工・建具屋さんたちの手づくり品が格安で手に入るとあって、今回も大盛況。お客さまに長時間お待ちいただくような場面もありました。無垢のテーブルのメンテナンス教室、のこ挽き・壁塗り体験などの体験コーナーは家族連れでにぎわい、特に今回初めて行われたゆいの郷の有機野菜の収穫体験と植林体験が好評でした。木ごころ郡山で初登場したアウトレット家具販売コーナー、ＯＢ様趣味の広場も好評をいただいています。写真展や「ガイアシンフォニー第六番」の上映会も行われ、秋の２日間を大勢の方たちと一緒に楽しみました。

この祭りは四季工房とお客さまの交流の場であると同時に、お客さまに感謝を表す場であり、四季工房の家づくりを皆さまに知っていただく場でもあります。そして毎年テーマは変わっても、変わらないキーワードが「エコロジー」。お祭りのあちこちで「エコ」を発見していただけるよう、毎回知恵を絞っています。

毎年恒例の木工バザール

子どももメンテナンスの体験

木工制作で木に親しむ

家づくりを学ぶセミナー

「人と環境にやさしい家づくり」セミナーは家づくりの勉強会で、東京、宇都宮、郡山、仙台の各拠点で行っています。間取りについて、エアパス工法について、人にやさしい住まいについて、建築家と工務店とハウスメーカーの違いについてなど、家づくりに関するさまざまなテーマを設定し、主に社長野崎が講師を務めてお客さまの疑問にお答えしています。同時開催の「間取りの相談室」ではプロの建築家からアドバイスを受けられます。2009年は延べ293組の参加者があり、「四季工房の家づくりについて、よく理解できた」「社長の本音の話が聞けて有意義だった」「木の家のメリット・デメリットがわかり、参考になった」などの感想をいただいています。

ありのまま舎への寄付

日本の木の祭り＆感謝祭やゴルフコンペなどのチャリティ募金を仙台市にある重度障害者施設「ありのまま舎」に寄付しています。ここは全国初の身体障害者自立ホームで、難病患者や重度障害者が人間

各地で開催する家づくりセミナー

として尊重される社会づくりをめざし、活動しています。2009年はゴルフコンペと木の祭りのチャリティで集まった計116,287円を寄付しました。

「地球交響曲（ガイアシンフォニー）第七番」協賛

映画「地球交響曲（ガイアシンフォニー）」はイギリスの生物物理学者ジェームズ・ラブロック博士の唱えるガイア理論「地球はそれ自体が一つの生命体である」をベースに、龍村仁監督が撮り続けてきたオムニバス形式のドキュメンタリーフィルムです。1992年に公開された第一番から2009年の第七番まで7作が発表されており、草の根の自主上映が中心であるにもかかわらず、延べ5,600回以上、延べ220万人以上の観客を動員してきました。四季工房はこれまでにも本シリーズの自主上映会を10回以上開催してきましたが、第七番では四季工房とエアパスグループが協賛企業として映画制作に資金協力しています。

「私たちは自分の力や意思だけで生きているのではなく、見えない大きなものとのつながりの中で生かされている」（龍村監督）というガイアシンフォニーの思想は、四季工房の家づくりの考え方に深く通じるものがあるといえます。

ネパールで草の根支援

四季工房とネパールとのかかわりは1997年から。植林ボランティアに訪れた現地で出会ったNGO「ラブグリーンネパール」を通しての交流と支援が続いています。このNGOはネパール各地で農民の自立支援、環境保護、福祉や教育の充実などの支援活動を行っている団体です。

2009年から四季工房とエアパス・エコ・プロジェクト（四季工房の子会社）の支援により進行しているプロジェクトは、①アナイコット村での女性センターの建設、②植林プログラムで使用する苗木の育成（約1万本）、③バイオガスプラントの設置などで、ラブグリーンネパールの管理経営とスタッフの能力開発も支援しています。

ラブグリーンネパールに資金援助することで、現地の事情とニーズに沿ったきめ細かい支援活動が可能になっています。（P.36参照）

ネパールでの植林活動を支援

植林支援活動を中心としたネパールのNGO（LGN）への支援

活動年	プロジェクト名	植林本数（本）	支援金額（円）
1997	第1回植林プロジェクト	150	53,000
1998	第2回植林プロジェクト	150	53,000
2000	第3回植林プロジェクト	200	55,000
2002	女性グループのための特別支援植林	200	50,000
1999/2000	LGN農園での苗木植え付け	20万*	1,280,000
2003	ラン開発計画		1,250,000
2004	LGNカトマンズ事務所建設支援		2,310,000
2005	高品質有機農産物開発支援計画		3,609,618
2006	地域型環境保全植林、教育、生活向上プログラム2006	3万5,000*	2,581,800
2007	地域型環境保全植林、教育、生活向上プログラム2007	1万4,000*	2,400,000
2008	地域型環境保全植林、教育、生活向上プログラム2008	1万5,000*	2,400,000
2009	地域型環境保全植林、教育、生活向上プログラム2009	1万*	2,400,000

*苗木育成本数

お客様係

四季工房では長らくメンテナンス室がお客様窓口を務めてきましたが、さらにきめ細かな対応を実現するため、2007年に社長直轄のお客様係を設置しました。お客様係は施工中はもちろん、お引き渡し以降も、全エリアのお客さまに定期的に電話連絡を行い、皆さまの声をお伺いしています。問題があれば関係する部門に状況や情報を伝え、速やかな解決を図っています。工事や外構、メンテナンスに関しては、担当者の対応の遅れや連絡もれがないかどうかをチェックする役割も担います。社内に向けては「お客様の声掲示板」「週間報告書」を利用してお客さまの声を報告し、情報の共有に努めています。

お客様係はお客さまの不安や不満を解消し、より満足度の高い家づくり、信頼と安心のある暮らしのお手伝いをすることが役割と心得て努力しています。

昨年お客様係に配属された大津ひとみは「お客様係となってから1年が過ぎましたが、その間たくさんのお声をいただき、皆さまとの信頼関係を築くためには、私たち社員一人ひとりが一つの声、一人のお客さまとしっかり向き合っていくことが大切であると教えていただきました。今後も皆さまとのつながりをより強いものとできるよう努めてまいります」と話しています。

NPO法人「未来の森づくり」による海外支援

地元NGOを通じ、ネパールでの女子学生への奨学金、学校建設、農業などの支援活動を行っています。

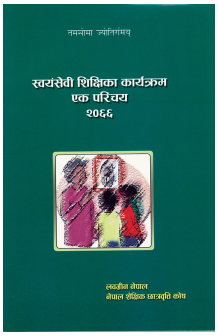
女子奨学生支援を継続

ネパールは一人あたりの国内総生産が約470ドル（約4万2000円・2010年3月時点）と、発展途上国の中でも最も貧しい後発開発途上国に位置付けられています。5年間の初等教育は無償ですが、識字率は男性約70%、女性約44%（2007年データ）に留まり、特に女性の社会的地位が低く、「教育は男だけでよい」という風潮が今なお根強いといいます。

そこでNPO法人「未来の森づくり」では2007年3月からネパールの女子中高生のために奨学金の支援を開始しました。ネパールでは月々約1,000円で学生一人分の学費・制服・学用品代がまかなえます。年間1口1万円で里親を募り、毎年約150人、2009年度までに延べ465人の女子学生を支援してきました。

支援プログラムは、リーダーズクラブ（週1回、スピーチの練習やプレゼンテーションの練習を行うことで学生の自信と決断力を深める）、学習旅行（年に1回、ネパールの歴史、芸術、文化や宗教の概要を学ぶ）、環境保護および気候変動の教育（植林活動、世界環境デーの式典、環境保護に関するワークショップなど）、ボランティア教師（2009年度はパンチカール村の13の公立学校に13人の学生を派遣）、基礎的なパソコン訓練などが用意されています。

2010年1月には学生による奨学プログラムの運営委員会が結成され、将来的に学生自身がリーダーシップを取ってこれらの奨学プログラムを運営できるようにしていこうとしています。また、ボランティア教師のプログラムの活動内容を紹介する小冊子も発行されました。4月にはボランティア教師全員が研修を受けて初等教育の教育法を学び、技量の向上に努めています。



ボランティア教師の活動報告書

2010年3月、社長野崎がネパールを訪問し、カトマンズの東30kmほどのところにあるパンチカール村で、女子奨学生42名と面会しました。支援を始めて3年目、彼女たちの成長ぶりを目の当たりにして、支援が役立っていることが実感できました。

2010年のネパール訪問

女子奨学生たち

農業支援も始まりました

2010年3月に社長野崎始め4人の四季工房関係者がネパールを訪問しましたが、その一番の目的は四季工房が実践している光合成細菌を使った有機無農薬野菜づくりを現地NGO・ラブグリーンネパールに伝授することにありました。

ネパールでも化学肥料や農薬を使った農法の弊害は出てきており、有機農法に対する関心が高まりつつありますが、実際に有機農法を見たり勉強したりする機会はほとんどないとのこと。そこで2010年度からラブグリーンネパールがパンチカール渓谷アナイコット村につくった0.5haのデモンストレーション農場で、地域の農民150人を対象に研修を行います。今回は土壌改良についての講習と、持参した種菌を米ヌカと酵母と混ぜて発酵させる培養実習を行いました。

有機農業の実習

学校建設支援プロジェクト

2007年からコルチェ村タクール学校の老朽化した校舎の建て替え・新設工事を行ってきました。工事は地元住民が砂、石、木などの資材と労働力を提供する方法で完工、2010年3月に引き渡し式が行われました。校長先生は「この地域でモデルになるような学校にしていきたい。そのため教育の質を上げていくことが目標」と語っています。2010年度活動計画はパソコン購入支援、図書室用の本購入などですが、すでに生徒が増えて手狭になってきていると聞き、今後も支援をつづけていく予定です。

建て替えたタクール学校

会社概要

会　社　名：株式会社四季工房
設　　立：1982年1月27日
資　本　金：1億8200万円
年　　商：59億2800万円（2009年実績）
代　表　者：代表取締役　野崎 進
社　員　数：113名（2009年12月31日現在）
事業内容：木造注文住宅施工販売／インテリア・小物販売
免許・資格：国土交通大臣 許可（般-19）第22332号、ソーラー住宅システム認定：認定番号 SH-0001、次世代省エネ基準住宅認定：評定第598号
取引銀行：福島銀行・足利銀行・みずほ銀行・七十七銀行
子　会　社：株式会社エアパス・エコ・プロジェクト（エアパスグループ本部として2003年2月設立。2004年12月四季工房の完全子会社化＝全国39社＝）［事業概要］1.建築資材の販売（エアパス部材をグループ会社へ販売）2.広告活動

事業所

東京本社：〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町三丁目1番6号　小田急バス吉祥寺ビル5F　TEL.0422-26-8322
さいたま支店：〒336-0042 埼玉県さいたま市南区大谷口766番地3　TEL.048-813-6021
宇都宮支店：〒321-0151 栃木県宇都宮市西川田町40番地8　TEL.028-684-2571
東北本社：〒963-0115 福島県郡山市南二丁目84番地　TEL.024-937-6351
仙台支店：〒989-3203 宮城県仙台市青葉区中山吉成1-17-23　TEL.022-277-9831
福島営業所：〒960-8071 福島県福島市東中央2-11-1　TEL.024-535-5091

展示場

仙台市3拠点・名取市1拠点・郡山市3拠点・西白河郡1拠点・いわき市1拠点・福島市2拠点・宇都宮市1拠点・小山市1拠点・さいたま市2拠点・三鷹市1拠点・世田谷区1拠点・立川市1拠点

ショールーム

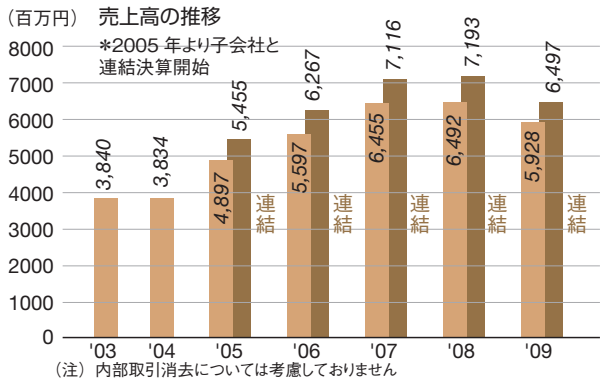
仙台市1拠点・郡山市1拠点・宇都宮市1拠点・さいたま市1拠点・小平市1拠点

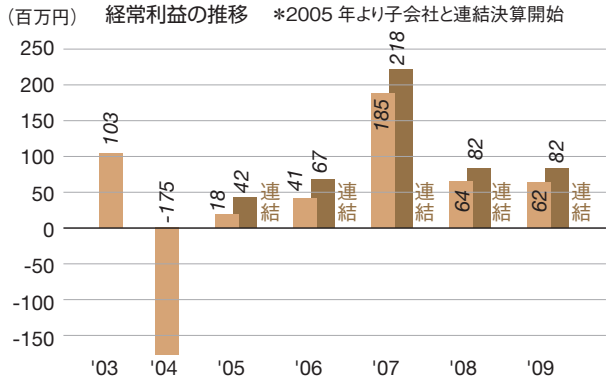
リフォームスタジオ（木ごころ）

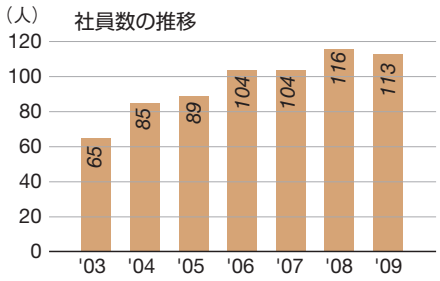
仙台市1拠点・郡山市1拠点・さいたま市1拠点・武蔵野市1拠点

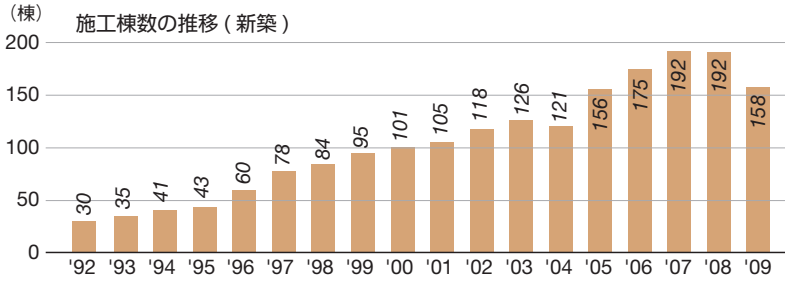
その他の施設

平田加工場：〒963-8202 福島県石川郡平田村大字上蓬田字薬師前72-1　TEL.0247-55-3169
ゆいの郷：〒963-8202 福島県石川郡平田村大字上蓬田字薬師前142　TEL.0247-55-2234
木材天然乾燥流通センター：〒963-5342 福島県東白川郡塙町大字伊香字中妻43番地1　TEL.0247-43-3855
ＷＳＳＡ：〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山1-132　TEL.024-944-0712









第三者意見書

井上有一氏（京都精華大学人文学部総合人文学科／環境社会学科教授）

ホリスティックなアプローチ

四季工房の取り組みは、「環境」「経済」「社会」の３側面のバランスに配慮し地域社会の持続可能な発展に寄与するサステナビリティ経営を具現化するものとして評価できる。その経営方針の特質は、ホリスティックなアプローチにある。ここで「ホリスティック」とは、単に「全体」を考えることにとどまらない。それは、「家づくり」という事業を広く人と資源との関係において地域の循環の中に埋め込もうとする努力にみられるように、このプロセスを構成する多くの要素のあいだに有機的なつながりを生み出し、相乗効果を持つ相互支持的な関係をつくり出すことを意味する。具体的には、地域材の利用、薪ストーブの活用、植林活動の推進といった取り組みが、確かに地域の山林保全に貢献するだろう。しかし、これらの取り組みは、人と人との関係、人と地域の関係を育てることを同時に意図するものになっている。この点が重要である。地元産業活性化への貢献や大工の育成活動に始まり、住宅購入者をはじめとする一般の人びとの参加を促すさまざまな工夫がなされている点は留意に値する。そして、農への支援・参画や里山再生の試み、さらには「日本の木の祭り＆感謝祭」の開催や「地球交響曲（ガイアシンフォニー）」の上映活動などは、この循環の流れをより確かなものにし、またその幅を広げ、地域の人と自然のネットワークの総合性を高めていくものになるだろう。なお、先進モデルとして、この「循環」が生み出すつながりの定量的評価もなされることが望ましい。それは、たとえば、地域材使用、薪ストーブ利用、植林活動、そしてコミュニケーション活動や大工育成プロジェクトにかかわる実績データを相互に関連づけ、四季工房の取り組みの基盤となる家づくりサイクル（P.18）がもたらす有機的連環の効果を、地域社会活性化や環境保全への貢献という側面から量的にも示すものである。

「ウィン・ウィンの関係」を生み出す

家庭における環境保全の取り組みには、節約する、がまんするといった、いわば禁欲的なこころがけのイメージが付きまとう。対照的に、独自に開発したエアパス工法を軸とする四季工房の家づくりは、このようなこころがけに頼る保全ではなく、システムに組み込まれ構造化された環境保全を実現するものとして評価できる。省エネルギーや省資源を日々の節約の努力によって実現しようとするこころがけ自体は尊いものである。しかし、実際の節減効果はそれほど大きいものではない。これに対し、パッシブソーラー性能を高め（＝冷暖房に要するエネルギー消費を大きく削減し）住居の長寿命化を図るなどの方策を積み上げ、建築物のライフサイクルでみた１年あたりの二酸化炭素発生量を従来の水準に比べて半減させるという家づくりは、量的な面でも低炭素社会の実現に意義ある大きな貢献をなすものになる。時代を先取りしているといっても過言ではない。しかも、環境の保全と人間の快適な生活、そのどちらかを犠牲にして他方の実現を図るということではない。自然の負担を小さく抑えてつくられた家が、室内の気温や湿度の大きな変化にさらされることなく（結露などの問題も少ない）、過剰に化学物質にさらされることもなく、木の家の良さを日々身近に実感できるといった、そこに住む人にとり望ましい暮らしを実現するものになる。前段でみた地域の自然と人との循環を生み出し育てていく取り組みは、これにかかわる人びとや自然がそれぞれにプラスを得るものであった（＝ウィン・ウィンの関係）。これと同じ関係が、ここでは、家に住む人の満足度を格段に高めること、そしてその家が環境に与える負荷を大きく低減するという二つの重要課題を同時達成することで成立している。

ネットワークを拡充する

このようにサステナビリティ経営のモデルの一つにもなりうる四季工房の取り組みは、二つのネットワークを拡充していくという課題を持つことになる。その一つは、すでに述べた地域の人と自然をつなぐウィン・ウィンのネットワークである。そして、もう一つは、地域を超えてさらに広がるネットワークであり、四季工房が持つものを一つの地域の中に閉じ込めないためのものである。このネットワークとしては、すでに各地の工務店をつなぐエアパスグループがつくられており、そこからさらに海外のNGOとの連携も図られる中、ネパールにおける教育や農業、そして植林活動への支援へと大きな広がりをみせてきている。今後、情報開示も徹底してじゅうぶんな説明責任を果たし、地域工務店としての取り組みを、より広い地域、そして地球規模の文脈の中に正しく位置づけつつ、これらのネットワークをさらに拡充する方向に進んでいくことが求められる。そうすることで、「地球規模で考え、地域で動く（Think globally, act locally!）」というエコロジーのスローガンの企業実践者として、その地位を確かなものにしていけるであろう。

四季工房の歩み

年	沿革	環境への取り組み（家づくり中心）	社会への取り組み
1982	●株式会社三和グリーンホームとして開始		
1988	●パッシブソーラーハウス・エアサイクル工法に出会う		
1991	●福島エアサイクル住宅株式会社と改称		
1995	●福島支店開設		
1997	●株式会社四季工房と改称し、国産材100%の注文住宅に特化する ●独自にエアパス工法を開発 ●仙台支店を開設 ●福島県平田村に木材加工場を開設	●国産材100%に切り替え ●押入れを無垢の板張りへ ●安心無害、呼吸する塗料を使用 ●無害なクロスとのりの使用へ ●ホルムアルデヒド調査の開始	●ネパールにおける植林活動の開始
1998		●四季工房の環境への取り組みを明言化した「五つの誓い」を発表 ●無農薬、無塗装の畳へ ●下駄箱やキッチンの物入れを無害合板に	●一般の人が間取りについて勉強できる「住まい塾」の開催を開始
1999	●エアパス工法・オリジナル部材の開発	●室内側には合板を1枚も使わない家に	
2000	●「四季ゆいの郷」構想が始動し、体感宿泊棟が完成 ●年間の完工棟数が100棟突破	●屋内壁をクロスから珪藻土（塗り壁仕上げ）に切り替え ●断熱材をウレタンフォームからポリスチレンフォームへ全面切り替え ●階段をヒノキの無垢材（幅ハギ）に切り替え	●伝統技術の次世代への継承を推進する「若手大工育成支援制度」の開始
2001	●エアパス工法がIBEC（財団法人建築環境・省エネルギー機構）の「ソーラー住宅システム認定」取得 ●本社新社屋完成、仙台事務所完成 ●郡山安積展示場オープン ●セレクトショップ“WSSA”オープン	●給水・給湯管をすべてステンレス配管へ切り替え ●合板使用ゼロを実現 ●エアパス工法実験棟における実測開始 ●薪ストーブ愛好会の設立	●「植林友の会」を設立し、植林ボランティアによる植林活動の開始（第1回）
2002	●仙台展示場・ショールームオープン ●福島新展示場・事務所オープン	●アルミと木の複合サッシ“エピソード杉”の開発 ●標準仕様建材に含まれる有害化学物質の把握	●地域の皆さまとの交流を図る「日本の木の祭り＆感謝祭」の開催（第1回）
2003	●いわき平成展示場オープン	●新・外断熱工法に改良 ●「ゆいの郷」内にある築50年の民家の再生	
2004	●埼玉展示場とショールーム、事務所オープン		●100万本の植林活動の開始
2005	●エアパス工法がIBEC（財団法人建築環境・省エネルギー機構）の「次世代省エネルギー基準適合住宅認定」取得 ●郡山本社ショールームオープン ●郡山中央展示場オープン ●いわき展示場・事務所オープン ●宇都宮展示場とショールーム、事務所オープン	●耐震起振検査の実施 ●屋根材のガルバリウム鋼板を0.35mmから0.5mm厚に ●フロア材の塗料をUV塗料を使用した工場生産に ●塗り壁を珪藻土から漆喰に ●屋根を透湿性ルーフィング＋無垢下地に ●輸送エネルギー削減のための大工手刻み場の拡充と大工の宿泊所の新設	●インドネシアにおける植林活動の開始（第1回） ●NPO「未来の森づくり」設立
2006	●白河展示場オープン ●東白川郡塙町に木材天然乾燥流通センターを開設	●適期伐採・新月伐採の開始 ●葉枯らし乾燥・天然乾燥の開始 ●耐力面材をMDFからMOISSに切り替え ●薪を破格で提供する「薪ストーブの集い」サークルを発足	●「人と環境にやさしい家づくりセミナー」の開始 ●若手大工の卒業式を実施（第1回） ●岩手大学に「健康見守り実験ハウス」を提供
2007	●三鷹展示場、成城展示場オープン ●名取展示場オープン	●エアパスの家の$LCCO_2$試算および中期目標の設定 ●森林認証（SGEC）の取得	●新潟県中越沖地震時に社員をボランティアとして派遣
2008	●東京ショールームオープン ●小山展示場オープン ●郡山と吉祥寺にリフォームスタジオ「木ごころ」オープン ●仙台新展示場オープン ●WSSA仙台店オープン	●エピソード杉・Low-Eガラスの標準採用 ●地熱利用の実験開始 ●最高レベルの環境性能の家「N邸」を建築 ●木工事の接着剤を「にかわ」の天然接着剤に ●ペレットストーブモニター機完成 ●手づくりキッチン「KURIYA」檜風呂「ほの香」の本格販売開始 ●シームレスアルミ雨樋の標準採用 ●20年メンテナンスから生涯メンテナンスへ	●農業への参画開始 ●社員による援農ボランティアの実施（第1回） ●震災時のための物資の蓄えを開始（木材天然乾燥流通センター） ●岩手県一関市厳美町の山にて分収造林契約締結
2009	●戸建賃貸住宅の展示場「フォレスト」オープン ●木造総合ゼネコン業をめざす	●「新・環境社会宣言」「新・住まいのエコ」の発表 ●自分の山の木を使って家を建てる「永えの森の家」1棟目の建築	●ゆいの郷で「収穫祭」の開催（第1回） ●福島県東白川郡矢祭町の山にて分収造林契約締結
2010	●仙台と大宮にリフォームスタジオ「木ごころ」オープン（WSSA仙台店閉鎖） ●立川展示場オープン	●平成22年第1回応募にて「長期優良住宅先導事業」採択	●「100人の棟梁を育てる人間育成塾」の開校 ●映画「地球交響曲（ガイアシンフォニー）第七番」の協賛

家づくりから、未来を変える。

株式会社 四季工房

株式会社四季工房　環境社会報告書2010
発行部署　株式会社四季工房 環境マネジメント室
〒963-0115 福島県郡山市南二丁目84番地
お問い合わせ先
TEL.024-937-6351　FAX.024-937-6341
E-mail; eco@sikikobo.co.jp
http://www.sikikobo.co.jp

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC™ C001626
PRINTED WITH SOY INK™
Trademark of American Soybean Association